

NEWSLETTER of
the Japanese Society for Applied Animal Behaviour No.4
May 2006

◇ ご挨拶

会長 近藤誠司(北海道大学北方圏フィールド科学センター)



本年3月の日本家畜管理学会・応用動物行動学会合同研究発表会の期間中に開催されました応用動物行動学会総会におきまして、会長を仰せつかりました。はなはだ微力ではございますが、懸命に勤める所存でございますので、どうか皆様方のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

ご存じのように本学会は1984年から行われてまいりました「家畜行動に関する小集会」が、発展的に解消して設立されたもので、現在では家畜のみならず伴侶動物や実験動物、野生動物の行動と管理に関する基礎的・応用的研究を追究する場でございます。これを踏まえて、昨年は佐藤衆介前会長の指導のもと、第39回国際応用動物学会議を我が国で開催し成功を納めました。勿論、これには共催いただいた日本学術会議、日本畜産学会、日本家畜管理学会を始め、会場を提供いただいた麻布大学のご尽力に寄るところが大きいと心より感謝しております。この場をお借りしてお礼申し上げます。

我が国における動物と人を巡る諸問題は益々複雑に、また早急に対応しなければならない問題が山積みされております。私どもは、こうした地球規模の社会的問題に対して行動学的見地から基礎的・応用的研究を追究し、また社会にアピールして行かねばなりません。本学会の位置づけはさらに重要となり、またそれに答えて行かねばならないでしょう。佐藤前会長の業績を踏まえて、応用動物行動学会は益々前進していかなければなりません。どうか皆様の積極的なご参加を願うと同時に、一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

◇ 2006年度春期研究発表会報告

副会長(大会委員長) 上野吉一(京都大学霊長類研究所)



2006年度春期研究発表会が、これまでと同様に応用動物行動学会と日本家畜管理学会の合同大会という形で、九州大学六本松キャンパスにおいて3月30日に開催された。演題総数は33題あり、応用動物行動学会としては11題

の申し込みがあった。しかし、残念ながら演題1つが、当日北海道があいにくの悪天候となり参加できない人が出たため、キャンセルとなった。発表は、「行動解析と個体の応答」、「生理」、「放牧」、「乳牛の管理」、「自給飼料・循環」、「獣害対策」、「家畜福祉」と7つのセッションに分けられ進められた。昼休みの1時間半をはさんで、朝8時半から6時までと長丁場な発表会だったが、いずれの発表も、活発な質疑応答がなされ、持ち時間の15分では足りないという雰囲気のものも少なくなかった。

研究会発表後は、会場係の人が捜してきてくれた会場近くの居酒屋で懇親会が持たれた。40名を超す参加者があり、身動きも取れないほどの中、歓談に花が咲いた。また、若い人達の”決意表明”やら”就職活動”などもあって非常に盛り上がり、あつという間の2時間だった。本学会のような数10名規模の研究発表会は、一人々々の距離が近く議論し合えることに1つの大きなメリットがある。発表の場のみならずこうした懇親会の場で、白熱した議論を交わすことは重要である。学会が大きく発展することを望むと同時に、アットホームな雰囲気の中で互いに刺激し合える場に今後もあり続けることを期待したい。

◇ 2006年度総会報告

副会長(事務局長) 森田 茂(酪農学園大学)



1. 総会の開催

2006(平成18)年度応用動物行動学会総会が2006年3月29日12:30より13:00まで、九州大学六本松キャンパス新1号館N142教室で開催された。2005年度活動報告(2005年8月麻布大学で開催された第39回応用動物行動学会議(ISAE2005)の報告含む)、会計報告、会計監査報告がなされ、承認された。また、新役員および評議員案が提案され、了承された。さらに、2006年度事業計画案および予算案が提示され、審議のうえ、承認された。

2. 2006-2007年度役員名簿

会 長 近藤誠司(北海道大 skon@anim.agr.hokudai.ac.jp)

副会長 上野吉一(京都大霊長研、大会委員長 okuma@pri.kyoto-u.ac.jp)

森田茂(酪農大、事務局長 smorita@rakuno.ac.jp)

植竹勝治(麻布大、学会誌編集委員長 uetake@azabu-u.ac.jp)

シンポ担当幹事 青山真人(宇都宮大 aoyamam@cc.utsunomiya-u.ac.jp)

会計担当幹事 出口善隆(岩手大 deguchi@iwate-u.ac.jp)

会員担当幹事 瀬尾哲也(帯畜大 seo@obihiro.ac.jp)

ニュースレター担当幹事 河合正人(帯畜大 kawaim@obihiro.ac.jp)

通信担当幹事 竹田謙一(信州大 ktakeda@gipmc.shinshu-u.ac.jp)

無担当幹事 友永雅巳(霊長研)、内田佳子(酪農大)、加隈良枝(帝京科学大)、
矢用健一(生物資源研)、楠瀬 良(JRA 総研)、田中智夫(麻布大)、
佐藤衆介(東北大)

監 事 杉田昭栄(宇都宮大)、柏村文郎(帯畜大)

3. 2006-2007 年度評議員

安江健(茨城大)、長谷川信美(宮崎大)、安部直重(玉川大)、山田明央(畜草研)、
岡本全弘(酪農大)、松井寛二(信州大)、小迫孝美(畜草研)、小針大助(茨城大)、
中西良孝(鹿児島大)、尾形庭子(どうぶつ行動クリニック・FAU)、森裕司(東大)、
松浦晶央(北里大)、梶光一(道環研)、坪田敏男(岐阜大)、鈴木正嗣(北大)、
池田透(北大)、仲谷淳(近中四農研セ)、江口祐輔(麻布大)、塚田英晴(畜草研)、
羽山伸一(日獣大)、織田銃一(名古屋大)、石井澄(名大)、松尾貴司(愛知淑徳大)、
小山幸子(Indiana 大)、石田戢(東京都多摩動物公園)、菅豊(東大東洋研)、
木村李花子

4. 2005 年度決算(別表)

5. 2006 年度予算(別表)

6. 国際応用動物行動学会議派遣等基金の設立

第 39 回国際応用動物行動学会議(ISAE2005)組織委員会の決議を受け、応用動物
行動学会が、ISAE2005 での資金的果実(余剰金)の管理・運営を行うこととなった(組
織委員長と学会会長との間で、2006/02/26 付けで文書締結済み)。

本基金は、1)国際学会役員の会議への派遣、2)若手研究者の国際会議への派遣、
3)応用動物行動学研究成果の広報・普及のためのシンポジウムの開催などに利用さ
れる。これら用途目的ごとに、毎年の大まかな予算を立てて執行することが確認され
た。

ただし、2)若手研究者の国際会議への派遣を含め募集方法や参加後の成果報告
などを本年度中に運用規程として整備することが確認された。

国際応用動物行動学会議派遣等基金 2006/2/28 現在

現金	70,076 円
郵便貯金(普通)	112,006 円
銀行預金(普通)	2,844,895 円
合 計	3,026,977 円

2005年度収支決算

2006/2/28

項目	収入(円)		支出(円)	
	2005予算	2005決算	2005予算	2005決算
前年度繰越金	225,837	225,837	印刷製本費	200,000 326,425
個人会費	274,000	308,000	シンポ・学会費	80,000 42,202
賛助会費	0		会議費	1,000 0
雑収入	1,000	69,002	通信費	30,000 22,530
			消耗品費	1,000 2,352
			謝金	3,000 0
			国際学会協力費	40,000 40,000
			手数料	2,000 1,260
			予備費	143,837 0
合計	500,837	602,839	合計	500,837 434,769
収支差額 168,070 (次年度繰越)				

2006年度(2006.3.1 ~ 2007.2.28)収支予算案

項目	収入(円)		支出(円)	
	2006予算	2005予算	2006予算	2005予算
前年度繰越金	168,070	225,837	会誌発行費	250,000 200,000
個人会費	290,000	274,000	シンポジウム・学会費	40,000 80,000
賛助会費	0	0	会議費	1,000 1,000
雑収入	1,000	1,000	通信費	30,000 30,000
			消耗品費	5,000 1,000
			謝金	3,000 3,000
			手数料	1,000 2,000
			予備費	129,070 143,837
合計	459,070	500,837	合計	459,070 460,837

◇ 海外における関連学会開催案内

【2006】

[East & West Central Europe International Society for Applied Ethology \(ISAE\) Regional Meeting](#) – 3rd Meeting

May 18-20, 2006 in Celle, **Germany**

[Poultry Welfare Workshop – Poultry Research Council of Canada](#) –
[Registration form](#)

June 5, 2006 in Agassiz, BC, **Canada** 7-Apr-06

[Canada-USA ISAE Regional Meeting](#) – 8th Meeting

June 7-8, 2006 in Vancouver, BC, **Canada** 10-Mar-06

[Agriculture, Food & Human Values – Association for the Study of Food & Society](#) – Joint meeting

June 7-11, 2006 in Boston, MA, **USA**

[·Appetite and Metabolic Function: Advances in Domestic Animals](#)

June 17-18, 2006 in Morgantown, WV, **United States** 4-Apr-06

[·Zoo Animal Training Meeting: Animal Learning and Management Workshop](#) –
2nd Meeting

June 19-22, 2006 in Paignton, Devon, **UK** 17-Jan-06

[·Eursafe 2006: Ethics and the Politics of Food](#) – European Society for
Agriculture & Food Ethics

June 22-24, 2006 in Oslo, **Norway**

[·American Society of Animal Science / American Dairy Science Association](#) –
Joint meeting

July 9-13, 2006 in Minneapolis, MN, **USA**

[·American College of Veterinary Behaviorists / Amer. Veterinary Soc. for Animal
Behavior](#) – (Joint) annual meeting

July 16-17, 2006 in Honolulu, HI, **USA**

[·Poultry Science Association](#) – Annual meeting

July 16-19, 2006 in Edmonton, AB, **Canada**

[·International Society for Behavioral Ecology](#) – 11th International Congress

July 23-28, 2006 in Tours, **France**

[·International Society for Applied Ethology](#) – 39th International Congress

August 8-12, 2006 in Bristol, **UK**

[·Animal Behavior Society](#) – Annual meeting

August 12-16, 2006 in Snowbird, UT, **USA** 17-Jan-06

[·European Conference on Behavioural Biology](#) – Mechanisms in behavioural
ecology

September 4-6, 2006 in Belfast, **UK**

[·American Academy of Pain Management](#) – 17th Annual meeting

September 7-10, 2006 in Lake Buena Vista, FL, **USA**

[·International Academy of Veterinary Pain Management](#) – Annual meeting

September 13-15, 2006 in Santos, SP, **Brazil**

[·Quality of Life: The Heart of the Matter](#) – A UFAW & British Veterinary
Association Ethics Committee Symposium

September 13-15, 2006 in London, **UK**

[·International Equitation Science Symposium](#) – 2nd meeting

September 19-20, 2006 in Lodi, **Italy** 3-Apr-06

[·European Society of Veterinary Clinical Ethology](#)

September 22, 2006 in Ghent, **Belgium**

[·International Society for Anthrozoology](#)

October 5-6, 2006 in Barcelona, **Spain** 2-Feb-06

[·Lameness in Ruminants](#) – 14th International Conference

November 8-11, 2006 in Colonia, **Uruguay**

[·German Veterinary Society – International Congress on Applied Ethology](#) –
38th

November 23-25, 2006 in Freiburg, **Germany** 23-Jan-06

【2007】

[·International Congress in Animal Hygiene - XIII](#)

June 17-21, 2007 in Tartu, **Estonia** 19-Jan-06

[·XXX International Ethology Conference](#)

August 15-23, 2007 in Halifax, NS, **Canada**

◇ 編集後記

今年度よりニュースレター担当幹事を仰せつかりました、帯広畜産大学の河合と申します。私が担当して初めてのニュースレター(No.4)をお届けいたしました。不備その他至らぬ点など多々あろうかと存じます。また、ニュースレターを定期的に発行するため、会員の皆様に置かれましては、御意見や掲載希望の記事などをお送り下さいますよう、御協力の程よろしくお願い申し上げます。(記 河合正人)

